

フローリング通信

2022年8月16日

ビタミンDと不妊症、不育症について

ビタミンDの生殖機能に関する重要性については、以前から言われていたことでありますが、先の学会でも講演がありましたので、今回みなさまにお知らせします。

ビタミンDは、その受容体が卵巣、卵管、子宮、胎盤に分布しており、妊娠および分娩に大変重要な役割を果たしています。体内では紫外線暴露によりコレステロールから産生され、肝臓や腎臓で代謝され、活性型となります。

ビタミンDと妊娠に関する報告は、血液中や卵胞液の中の濃度が高い方のほうが体外受精の成績がよい (Fertil Steril)、充足している患者さんでは、不足している患者さんより生児獲得率が高かった (Hum Reprod)、などビタミンDが生殖機能に重要であることが文献により示されています。

また、ビタミンD投与により妊娠維持に重要な免疫機能である Th1/Th2 細胞比が正常化する (Nutrients) ため、不育症や着床不全の方にも重要であることがわかります。

ビタミンDは、妊娠・分娩に重要な働きを担っており、不足の方にはサプリメントでの摂取をお勧めいたします。